

育成センターだより

平成31年
1・2・3月号
No. 413
長野市少年育成センター
TEL. 228-8547
FAX. 224-0109

有害環境浄化活動強化月間(二月)



一・二・三月の育成活動

新年明けましておめでとうございます。子供たちは一年の計を立て、それぞれの熱い思いや願いを胸に2019年のスタートを切ったことでしょう。

新しい年の始まりと年度の締めくくりにこの時期に当たり、子供たちの確かな自己実現の姿を見守り励ましてまいりましょう。そして、子供たちとの関わりを深めながら、自立を支える環境の浄化、声かけ、非行防止の活動に一層努めてまいりましょう。



親子で学ぶ、スマホの正しい使い方 (出前講座)

育成活動の重点

「買い物や財布の管理を賢い自立の一步」

お年玉、小遣いに 子供たちの期待もふくらむ時期、子供たちの買い物行動に目配り・心配りを

「つくろろ 携帯・スマホのルール 家庭で 学級で」

新たに購入や使用の年頃を迎える家庭学級ではいつまでも楽しい機器であるよう子供と一緒にルール作りを

「寒さが緩むと気も緩む 深夜の外出に 愛の眼差しを」

二月後半から三月へ寒さが緩み気も緩む時期、深夜徘徊、遅い帰宅に愛の眼差し・声かけを

「相談は、受けとめ 寄り添い 語り合い」

旅立ちや別れの季節は子供の心も不安定相談は臆き取り受けとめ寄り添って 未来を語り合いましょ

暗黙知を明示することの意義

長野市教育委員会 教育次長 永井 克昌

新学習指導要領が告示され、解説も出そろいました。各小中学校は、新学習指導要領への対応・準備で、てんてこまいです。学習指導要領なんていう言葉を聞くと、ちよっと難しく感じる方々もいることと思います。一方、「道徳の教科化」「プログラミング教育の必修化」「小学校における英語の教科化」等、新聞の見出しを飾る改訂内容に関心を持たれている方々もいることでしょう。

先日、上智大学教授奈須正裕先生が著した新学習指導要領に係る文を目にする機会がありました。小学校一年生国語科「くじらぐも」の授業についてでした。空を泳ぐくじらぐもと、運動場の先生と子どもたちの間でのかけあいの場面で、どのせりふが誰のせりふなのか確認しながら読みを深める活動の中、ある男の子が、くじらのせりふを「子どもたちのせりふだ」と言ったエピソードが取り上げられていました。「雲がしゃべるはずがない」というのがその理由でした。

物語文の読解において、登場人物の概念が重要です。同時に、物語の世界が、私たちが生きている現実の世界とは異なるお話の世界、いわゆるファンタジーの世界であることこの理解も重要です。奈須先生は、くじらぐもを例を示しながら、これまで、このような子どもへの反応を暗黙知として処理し、丁寧に子どもにその理由を説明せずに授業を

行ってきたのではないかと問いかけているように感じられました。実際、小学校低学年時の学習でつまずいたことを要因の一つとして、自己肯定感を低くしてきた子どもがいます。例えば、このようなファンタジーの世界が現実とは別の世界として存在するという理解が出来にくい子がいることに、その時点で周りの大人が思いを寄せ、適切なやりとりが出来ていたら、その子の後の生活は変わっていたかもしれません。

今回の新学習指導要領では、「各教科等の特質に応じた『見方・考え方』が、教科指導の重要な基盤と位置づけられています。同時に、「一人一人の子どもの『見方・考え方』が異なること」を改めて理解し、支援につなげていく必要があることを強く思います。これまで、学習指導要領といった身近とは言い難い話題を取り上げてきました。このようなお話は、学習場面にて特化して起きているわけではなくありません。「わざわざ言葉にしなくてもたいの人がわかっているだろうこと(暗黙知)」とされ、特別な説明を加えずに済まされていることは、私たちが気付いていないだけで、身近にも多くあることと感じます。大勢に紛れ、行き場を失っている「困り感」への感度を高め、誰にとっても優しい社会となるようみんなが努めたい。「暗黙知」の明示化は、青少年の健全育成につながる「鍵」の一つと考えます。

学校紹介

篠ノ井東中学校

清掃・奉仕活動の取り組みを通して

学校少年育成委員 鎌田 真

篠ノ井東中学校は長野市の南東の端に位置し、十四学級の中規模の中学校です。本校では、「人にやさしさ 自分につよさを学校教育目標に掲げ、明日を切り拓く深く豊かな人間の醸成をめざし、日々の教育活動に取り組んでいます。平成十九年度には当時の生徒会が中心となり、「東中人権宣言」を制定しました。当時の様子を聞くと、全校生徒で話し合いを重ね、納得がいくまで意見を交わしたそうです。「友を認め思いやる優しさをもち、安心して生活できる東中を大切にしたい」という過去の先輩方の想いが、今現在でも生徒たちの心の中に大切に受け継がれていることを感じます。そして私たち教職員も教育活動全体を通じて人権教育を重視し、安心・安全で居心地のよい学校づくりを推進し、多くの生徒が落ち着いた生活を送ることができています。しかし、基本的な生活習慣が確立されていない、学校生活のルール・マナーを守ることができない、相手を思いやることのできない関わり方をしてしまう等の姿もしばしば見受けられます。対症

療法的な指導ではなく、生徒の心に寄り添い、一人ひとりの良さを認め、生徒自身が有用感や自信を育み、自らを伸ばしていけるような開発的・予防的な指導・支援をしていく重要性を強く感じています。

このように課題となることも当然あるわけですが、生徒の頑張りや輝きを日常の様々な場面で見ることができています。特に生徒会活動では、生徒会委員のリードのもと、今年度ならではの新たな試みや挑戦から、全校生徒一人ひとりが生徒会の一員として、生徒会活動に主体的に参加しているような取り組みが積極的に計画され、実施されています。その中でも特に、清掃活動の改善・向上に向けた取り組みや奉仕作業の取り組みについて紹介させていただきます。

まず清掃に関して、これまでの自分の清掃や清掃に対する思いを見返し、清掃をより良いものにしていきたい、本校の伝統である「無言清掃」をもっと大事にしたいという思いから、昨年度より有志生徒による「みがき隊」の活動が継続、実施されており、

全校生徒から有志を募り校舎やトイレの便器を磨く活動を実施しています。昨年十月に実施された第一回目のみがき隊では、整美委員会の呼びかけに集まった七十名を超える生徒が、理科室の床磨きを黙々と行いました。放課後の限られた時間でしたが、水道や流し、床磨きの清掃を行い、長年の間についた頑固な汚れを根気よく落とし続けることで、汚れを落とす心地よさ、自分一人になり時間を忘れ清掃に向かう達成感を味わうことのできる活動となりました。

十二月に行われた第二回目の「みがき隊」では、一回目を上回る八十名の生徒が意欲的に参加し、学校中のトイレを磨きました。一年生から三年生が縦割りグループ分けされ、一人一便器を一時間かけて磨き上げました。素手で便器をこすりリーダーシップを発揮した三年生、

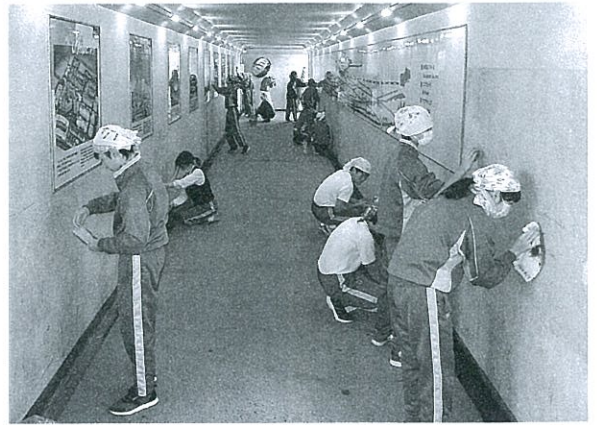


伝統のトイレ無言清掃「みがき隊」

身を乗り出して便器を磨く二年生、先輩の姿を見ながら一生懸命に取り組んだ一年生。我々教師も生徒たちと共に達成感を味わいました。そして「伝統を大切にしたい」という生徒の姿を誇りに思いました。

二月には第三回目を実施され、長野便教会の皆さんにもお越しいただき、外部の方との清掃を通じた交流を深めました。今年度は、本校を会場として第十一回長野県中学校清掃サミットが七月二十九日に行われました。他校を含め百名を超える参加者が本校に集い、県内外からお見えになった便教会の方々から「清掃に学ぶ」とはどういうことなのかを教えていただきました。ただひたすらに目の前の汚れに終始向き合った生徒、きれいになればなるほど小さな汚れが気になり、それを落とさずにはいられない自分へと変容していく姿がありました。

また、今年度の新たな取り組み「地域貢献プロジェクト」の第一弾として、有志生徒による地下道清掃が始まりました。学校近くの国道を挟む地下道は、生徒のみならず多くの地域の方が利用しています。「黒く汚れた地下道の壁をきれいになりたい」という一人の生徒の意見が取り上げられ、この活動が実現しました。一年生から三年生まで全校の半数近い生徒が参加し、口頭お世話になっている地域に貢献しようとして、地下道内の壁を磨きあげました。生徒が清掃した後の地下道内は大変明るくなり、やり終えた後の達成感に満ちた生徒の



「地域貢献プロジェクト」地下道汚れ落とし

表情がとても印象的でした。これらの新たな取り組みや、大切に継続している取り組みが核となり、東中全体の清掃が更に向上していけばと考えています。物事に真摯に向かう姿の広がりが、学校生活における他のあらゆる場面・状況においても、適切な判断・行動する力へとつながっていくと信じています。

生徒たちの想いや考え、発想を最大限に生かす活動は、生徒の大きな達成感・充実感につながることを実感しています。また、個の頑張りや良さを認め広めていくことで、集団の意識が大きく変容して行くことを感じています。

生徒一人ひとりの想いを受容・共感しながら温かく接し、更に、生徒の先を見据えた我々教師の指導・支援が生徒の生き生きとした姿につながっていきます。熱意、誠実さ、愛情、師弟同行の精神をもち、

今後更に生徒の心に寄り添いながら生徒たちの成長を応援していきたいと思えます。そして学校が、生徒にとって安心・安全で居心地が良いと感じられるよう、地域・保護者の皆様との連携を大切にしながら

朝陽地区の取り組みから

巡回・研修活動で己を向上

朝陽地区住民自治協議会教育文化部会
少年育成委員会 会長 池田 義一

私達「朝陽地区少年育成委員」は、平成二十二年発足した「朝陽地区住民自治協議会の教育文化部会」に属し八年を経過しました。

活動内容は、「長野市青少年保護育成条例」に基づき、地区内から選出された十二名が三班編成で定期的な「街頭巡回指導」・「環境浄化活動」を実施しています。

巡回時には、委員証・少年育成委員の腕章・ゴミ収集のトンングとゴミ袋・移動時の車にはパトロールの表示を掲げ、スーパー・コンビニ店・娯楽施設・電鉄駅周辺・遊園地・神社境内・学校・交番を巡回及び訪問しています。ありがたい事に訪問先の皆さんは協力的で笑顔で対応してくださいます。

巡回後の定例会では、気になった事・訪問先の情報等を記録に残し次回の活動に役立てています。私達委員は、任期二年で慣れた頃

日々の教育活動に取り組んでいきたいと思えます。



約半分が新規の委員に代わることから育成委員としての向上を願う研修活動を設けています。

まず、少年育成センターから講師の派遣を依頼し、私達と巡回指導に立ち合って頂いた後講評を兼ね巡回時のポイント(声かけ、犯罪が起きやすい景色を



見抜く事等)広い視野を持った環境浄化活動のポイントを学び、また、今増加傾向にある、ネット犯罪のDVDを視聴して、便利な機能が一歩間違えれば犯罪に巻き込まれていく様子に考えさせられました。ネット犯罪を減らしていくには、やはり家庭内のルール作りはもろろんの事、これを守らせていく保護者の気配り、子どもとの対話が大事かと思えます。

次に、当地区内にあります「児童養護施設・三帰寮」を訪問し、寮長さんと情報交換を行いました。当施設は、保護者のいない児童・安定した生活環境の確保が難しい児童達が幼児を含めて三十数名が六人〜八人で各ユニットに分かれ寮生活をしています。懇談中、幼稚園・学校から帰ってきた児童達の明るさと、はっきりした挨拶に感動しました。これは職員の児童への思いやりと優しい心で接している事だと思えました。皆さん、機会があったら訪問してみてください。恵まれた家庭に於いても、思いやりの心を持って接し、生活習慣を身につけた子に育てることがいかに大切かを感じました。

青少年の育成に直接携わる私たちは、日頃の活動と研修で得た経験をもとに「安心・安全な地域」を目指し努力してまいります。



出前講座～各地区へも出掛けています

地域対象の住民講座にて

いじめ 早期発見と対策

●11月18日(日) 吉田・押鐘地区

午前中押鐘会館に職員2名が伺い出前講座を行いました。

学校でのいじめは自殺など重大事件に発展することもあり、小さな出来事も細心の注意を払って見守っています。

また、いじめの体験をしたことがある子が九割を越え誰にでも起こりうると思われています。「家庭や地域も学校と連携をとって子供たちを見守っていきましょう。」とお話しをいたしました。



互いの顔を見合って、考え、語り合い (押鐘会館にて)

こんな場面で、あなたならどう考え対応しますか

場面1 「先生！水をかけられました。」
低学年の男の子が困った顔をして訴えてきました。〇〇〇〇んに水をかけられたとつづです。
これははじめかどつかしほしく話し

合ってから、先生のとつた対応をお話ししました。

(先生) 「何もしないのに、かけられたのですか?」(この前後を知ることには大事です。)

(子供) 「うん、ぼくは少ししかかけてないのに、〇〇君はそれよりもいっぱいかけてきました。」

(先生) 「あなたがかけた分より多い分があなたが先に水をかけたことで怒らせてしまったんだよ。これからどうしたい?」

(子供) 「謝りに行く。」

(先生) 「それがいい。先生も一緒に行ってあげるからこれから行く。」

子供のささいな行き違いや誤解からいじめの芽が生まれます。早期の適切な対応や指導で「いじめ」にならずに済ませることが大切です。子供にとつては、人間関係の小さなトラブルから学ぶ事は多いはず。大人は子供と一緒に考え行動したいものです。

そのために、子供たちの世界に関心を寄せ、心配な変化を見落さないことが大切です。

携帯スマホ、SNSでのいじめが増えているその実際は?

場面2 SNS、友達とのやり取りで

A 「今日のドラインもみんなおもしろかった」

B 「塾で見てない、これから録画見よう」
C 「Aにぬいぐるみ(スタンフ)ももらったよ、これってかわいくない?」

この後、Cは生意気だとはじかれていきました。どうしてでしょう。話し合ってもらいました。その中でこんな意見が。

「かわいくない」の後にハートマークをつけられ良かったのに、かわいくないと否定されたと思われたのですね。ちょっとしたことか生意気だと発展していく、怖いですね。

「いじめ」見逃さない！子供たちの笑顔のために

資料(県教委作成リーフレット)を参考に、大人の私達ができることを「見守る」「かわわる」「つながる」3つのキーワードから考えてもらいました。

●「見守る」では、子供のサインを見逃さず発見しよう、実際にチェックリストを使いし点を入れてみました。

●「かわわる」では、「コミュニケーションをとらましよう」と、子供と一緒にいる機会をつくる、聞き役に徹する、子供の話を整理し子供の気持ちを大切にしながら解決へ向けて進む。関わりを具体的に考えました。

●「つながる」では、ひとりで悩まないで相談しよう、学校はもちろんのこと警察や公的機関の窓口の利用もできることを確認しました。

「コミュニケーション力」を高める「ということ」で演習も行いました。

演習1 配布されたA4用紙に、次に

①上と下に△を書きまます
②大きな○を1つ書きまます

その中に□を1つ書きまます
③最後に真っ直ぐな線を書きまます
※隣同士あまりに違う図にびっくり

演習2 シュースー本。コップ2個を用い2人で仲良く分ける方法は?
※1人がコップ2つに分け、もう1人が選ぶ。これで両者不満は出ない。

参加者の感想

★本日はありがとうございました。ほんの小さなことから誤解が生じるのは大人も子供も同じだと思います。改めて気をつけると共に個々を認め合える社会になればと思います。

★「いじめ」の解釈について認識が違っていた。私達の時代は子供たちだけで解決出来ていたことが多かったように思う。地域活動がこの問題にもお役に立てばよいと思います。「コミュニケーション」という意味で。

★子供が大きくなるにつれて内と外の顔があったりして距離感を難しく思います。昔のいじめとは変わっていることを痛感しています。心を強くすること、相手を理解すること、いろいろなものに関わることを子供に体験させたいと思います。

編集後記

平成30年度も後3ヶ月、ラストスパートになりました。よき締めくくりになりますよう初心に戻り頑張りましょう。今年度を振り返ると「出前講座」を始めたことが印象深いです。現場に行つてこそ味わえる手応え、今後の活動に活かしてまいりたい。社会問題はまるで生き物のよう、時代と共に変わっていく。アンテナを高くし常に学んでいかななくては、そんな思いを新たにしました。最後に今年度1年間の皆様の連携・協力に心より感謝申し上げます。